

處報 NASUKARASUYAMA

那須烏山

— No.102 —

2014
March
3

Public Relations Magazine
of Nasukarasuyama City

「烏山城」4年間の発掘調査の結果…	2
「春の山あげ祭」いよいよ公演………	11
まちの話題……………	14
インフォメーション……………	16

市イメージキャラクター



やまどん ここなす姫 からすまる



思いがけない大雪に大喜び(2月4日、八雲神社境内にて)

一特集一

鳥山城

4年間の発掘調査の結果

正保城絵図(部分)



▲多くのお城ファンが見学に訪れた(平成22年度、本丸にて現地説明会)。



▲東日本の城郭では珍しい本格的な石垣が用いられている鳥山城(常盤曲輪付近の石垣)。

市教育委員会では、この貴重な鳥山城を後世へ引き継ぎ、さらに魅力ある史跡とするために、平成21年度から4年にわたり発掘調査を実施しました。そこで今回は、この調査を担当した市教育委員会事務局生涯学習課文化担当の江守浩史係長(学芸員)にその概要を紹介してもらいます。

「陶磁器、鉄製品、銅錢などの貴重な遺物が出士し、今まで考えられていた城の実像とは異なる、新たな発見があった」と大きな成果があった発掘調査から、本市の貴重な文化遺産の魅力をお届けします。

近年、「歴女」に代表される新たな歴史ファンが増え、書店には、城の解説本や全国の名城紹介の書籍が数多く並んでいます。最近では「天空の城」、「日本のマチュピチ」と呼ばれ話題となつた竹田城跡(兵庫県朝来市)に、年間40万人以上の観光客が訪れ、あまりの急増ぶりに入場制限が検討されるなど、お城に関わる話題は事欠きません。那須烏山市にも、約600年前に、那須氏の一族沢村五郎貢重によって築かれたといわれる鳥山城という山城(※)があります。この城は、明治時代まで鳥山藩の居城として使用され、その規模や歴史的背景から、栃木県を代表する名城の一つと言われています。しかし、未調査であったために実像が分からず、知る人ぞ知る存在となっていました。

近年、「歴女」に代表される新たな歴史ファンが増え、書店には、城の解説本や全国の名城紹介の書籍が数多く並んでいます。最近では「天空の城」、「日本のマチュピチ」と呼ばれ話題となつた竹田城跡(兵庫県朝来市)に、年間40万人以上の観光客が訪れ、あまりの急増ぶりに入場制限が検討されるなど、お城に関わる話題は事欠きません。那須烏山市にも、約600年前に、那須氏の一族沢村五郎貢重によって築かれたといわれる鳥山城という山城(※)があります。この城は、明治時代まで鳥山藩の居城として使用され、その規模や歴史的背景から、栃木県を代表する名城の一つと言われています。しかし、未調査であったために実像が分からず、知る人ぞ知る存在となっていました。

日本の城の実情

みなさんは、日本のお城（以後、「城郭」と呼びます）というと、どんな姿を想像しますか？

たぶん頭の中には、高い石垣の上に

そびえ立つ白亜の天守、例えば、世界遺産の姫路城、くまモンの熊本城、金鯱の名古屋城など、全国各地の名城の姿が浮かんでくるのではないでしょか。実はこれらの多くは、織田信長が安土城を築いた頃（1579）から、大阪夏の陣（1615）頃にかけて、わずか30年余りの間に築城された、近世城郭と呼ばれている城郭なのです。

それ以前の城郭は、高い山や丘陵を利用して築かれています。敵の攻撃から守るために、土壘（※）や空堀（※）などで厳重に防御されていましたが、一般的に規模は小さく、建物などは簡単な造りとなっていました。城はあくまでも軍事的な施設でした。これらは、中世城郭と呼ばれています。

近世城郭が登場した時期は、全国統一が進行する時期と重なります。戦乱に勝利し、広大な領地を持つようになつた各地の大名が、政治的、経済的な力を誇示するために、平野などに豪華な城郭を築くようになりました。この時期を境に、中世以来の「実戦の城」から、権威の象徴である「魅せる城」へ大きく変化したのです。

日本には、3～5万箇所の城郭が存

在すると言われていますが、近世城郭の数はその1割にもなりません。その意味では、全国に残る城郭は、日本人が持つていて典型的なイメージとかけ離れた、中世城郭が大部分を占めているのです。

鳥山城の立地

では、鳥山城はどうでしょか。城郭が築かれた場所や周辺の地形を見てみると、築城者の意図、選地の意味が分かってきます。

鳥山城は、鳥山市街地の北西に連なる喜連川丘陵の一部を利用して築かれています。八高山（標高206m）と呼ばれる丘陵と、それに連なる山々を利用して築かれ、東西約350m、南北約600mの範囲に、通称「五城三郭（※）」と呼ばれる曲輪群（※）と、土壘や空堀などが設けられています。また、万治2年（1659）には、時の城主堀親昌により東山麓に城主の新たな居館（三の丸）が築かれています。



▲南上空から見た鳥山城と周辺地形（遠くから見ると牛が寝ている姿に似ていることから、別名：臥牛城と呼ばれている）。

と、東～南方向は、河岸段丘と那珂川が、天然の城壁と水堀の役目を果たし、西方は江川が天然の水堀となっています。そして、周辺の丘陵や河岸段丘上に要害（砦）や支城を置くことにより、鳥山城全体の防御力を高めています。

このように見ると、鳥山城は防御性に優れた地を選んで築城され、幾重にも防御が施された「実戦の城」であることが、良く分かるのではないかでしょう。

▼三の丸の石垣(P2の常盤曲輪付近の石垣と積み方が異なる。こういった違いを見るのも楽しみの一つです)。



※用語説明

山城：地形を利用して、独立した山や丘陵などに築かれた城郭のこと。
土壘：曲輪の周囲などに土を盛り上げ、敵の攻撃から城を防御するもの。
空堀：水のない堀のこと。中世城郭では一般的に空堀を使用した。
五城三郭：鳥山城に設けられた曲輪の通称。絵図や文書などで様々に呼称があるが、一般的に、古本丸、本丸、中城、西城、北城、常盤曲輪、若狭曲輪、大野曲輪のことを指す。
曲輪：堀や石垣などに守られた、城郭や館の内部の一区画。郭とも書く。

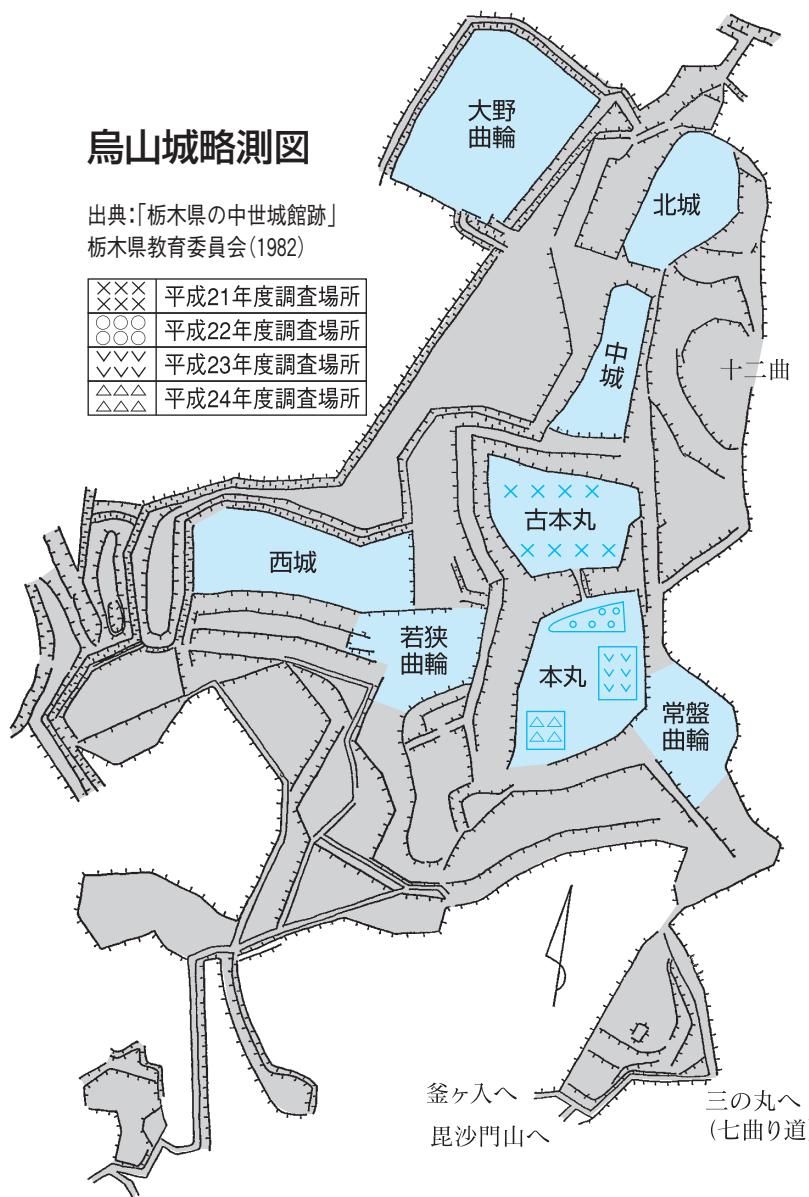
調査の場所

発掘調査は、平成21年度に古本丸、平成22～24年度は本丸で行いました。古本丸と本丸、ここは、城主が居住し、政務を執っていた場所で、城の心臓部とも言える場所です。

略測図(左記)では分かりにくいのですが、両曲輪は、並んだ形がスキーなどで使うゴーグルのような形をしています。規模も同程度であることから、2つの曲輪は、互いに補完し合う関係で造られたことが想定されます。

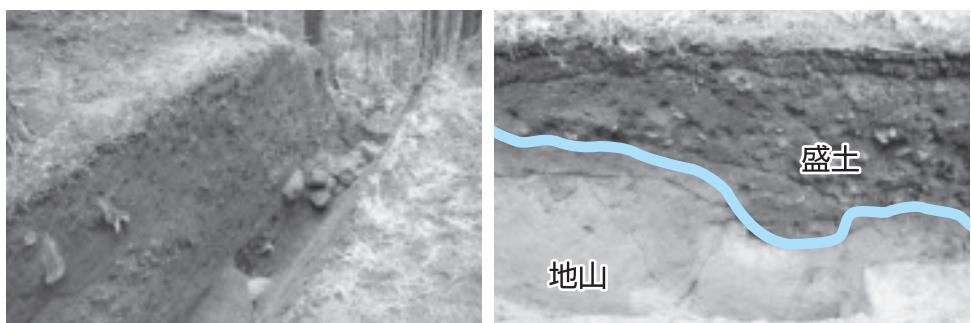
実際には、古本丸の方が約3m高く造られています。

このことは、当時は古本丸が上位の曲輪として整備されたものの、何らかの理由で本来の機能を失い、江戸時代には、城の中心が本丸に移行していましたことを物語るもので、城の発展経緯を知る上で、興味深いものです。



古本丸の調査

古本丸は、北面が直線、西～南面が丸みを帯びた蒲鉾状の形をしています。大きさは東西約70m、南北55m、高さ約15m、東面には台形状の張出し(横矢掛)、西～南面には高さ約1mの土



左:古本丸の土層(丘陵の地山(ローム層))の上に何層にも土や砂利を積んで曲輪を作っている。右:古本丸張り出し部の掘り下げ(大規模に盛土を行っている)。

※用語説明

正保城絵図：正保元年(1644)に江戸幕府が、全国の諸藩に作成を

命じて提出させた城下町の地図。

城内の建物や石垣の高さ、堀の幅などの軍事情報が精密に描かれて

れている。

御殿：城主の邸宅のこと。中世では城外に作ることが多かったが、戦国期になると、危険なために城内に建造するようになった。

矢狭間：堀や建物の外壁などに設けられた、矢や鉄砲を発射するための小窓のこと。

櫓門：門の上に建物がある城門のこと。

二階門、楼門とも呼ばれる。

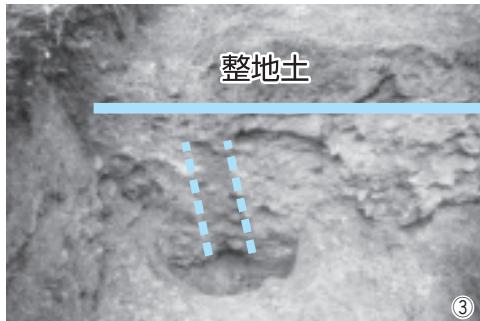
横矢掛：城壁や土壘を屈折させ、二方向以上から敵へ射撃ができるようになした城の構造のこと。また、その攻撃のこと。

普請：城郭の築城や修復のために行われる土木工事のこと。

墨が巡っています。

調査は、内部にトレンチと呼ばれる試し掘りの溝や区画を設定し、地面を約0.5～2.5m掘り下げて、城が使われなくなつた後の土の堆積や、埋没している遺構の保存状態などを確認しました。

その結果、丘陵の頂上部を岩盤層まで削り出して平場を作り出し、砂利やローム土などで盛土を行い、曲輪を整地していることが分かりました。土塁や張出しが、何層にも土が盛られ、硬く



①古本丸土壘の掘り下げ状況(土と砂利を交互に積んで土壘が作られている)。

②古本丸西側土壘の掘り下げ状況(土と砂利が交互に積んである)。

③古本丸柱穴の断ち割り状況(中央部分に柱の痕跡が残っている)。

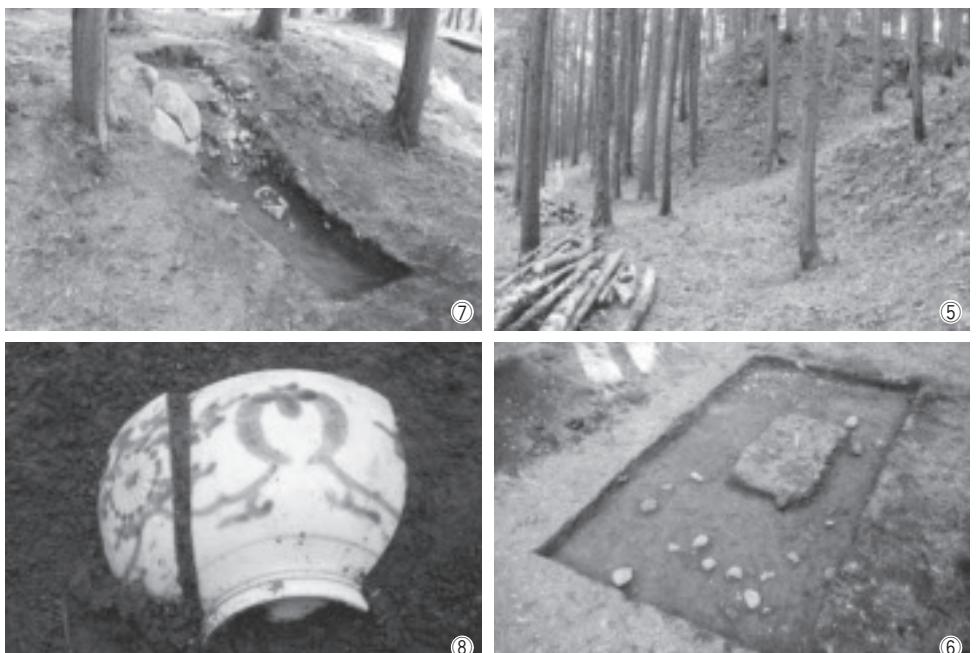
④古本丸から出土したカワラケ。

突き固めて築かれていました。また、岩盤層を掘り込んで作られた古い時期の柱穴が、整地土で埋められていることも確認できました。

土の掘り下げは、崩落の危険があるため途中で中止しましたが、土の堆積状況から、東西それぞれの面で幅約10～12m、高さは、曲輪底部から約15m

も土を積み上げたことが推定され、古本丸は、ある時期に大規模な土木普請（※）によって外側に大きく拡張され、新たに作り替えられていることが判明しました。

出土遺物として、陶器片、釘などの鉄製品、銅錢などがありました。特に、カワラケと呼ばれる素焼きの小皿が、廃



⑤下から見た本丸(壁面を急傾斜に整え、簡単に登れないようになっている)。

⑥本丸高段の平坦面の掘り下げ状況(拳ほどの石が散乱していたが、柱穴等は確認できず)。

⑦本丸高段面に確認された石積み。

⑧本丸高段面から出土した陶磁器。

本丸の調査

棄された状態で約70枚が一括出土したのは、土木普請が行われた時期を推測するうえで、貴重な発見となりました。

本丸は、北面が約40m、南面が約70m、高さ約8m、南北に長い台形状の形をしています。古本丸に接する北側に半月形の高さ約1mの高段、南西側に正門が設けられています。

(1) 高段面の調査(平成22年度)

高段面に、トレンチを5ヶ所ほど設定して建物の有無などを調査しましたが、柱穴や建物の痕跡は認められませ

んでした。これは、古本丸と本丸の高低差が約3mあることから、高さを調整する意味で高段が設けられたのではと考えられます。また、土留めのために、法面に石積みが施されていることも確認できました。

(2) 本丸中央部分の調査(平成23年度)

この年、東日本大震災が発生し、石垣の一部崩落、地滑りや地割れの発生など、鳥山城も大きな被害を受けました。調査期間中には、台風により地滑りや倒木で発掘現場が一部破壊されるなど、自然災害の怖さを思い知らされた調査となりました。

本丸内部に、約20cmの高さで土が盛られている痕跡(土壇)が広範囲に確認されたことから、その一部分について調査を行いました。ここは、正保城絵図に描かれた、御殿建物が存在したと予想される場所になります。

表土を約10cm除去すると当時の地表面が現れ、土壇が建物の基礎にあるたることが確認されました。整地面の上に盛土を行い基礎面とし、法面や床面に小石を敷き詰めて、排水対策や美観に配慮をしていました。

この部分は、城の中核に至る最も重要な進入路であり、正保城絵図には、石垣が用いられた櫓門が描かれ、堅固な防御体制と正門としての格式が備わっていたようです。

調査では、枠形空間(※)に作られた石段や、石組み遺構などが広範囲に出しました。

(3) 本丸正門付近の調査(平成24年度)

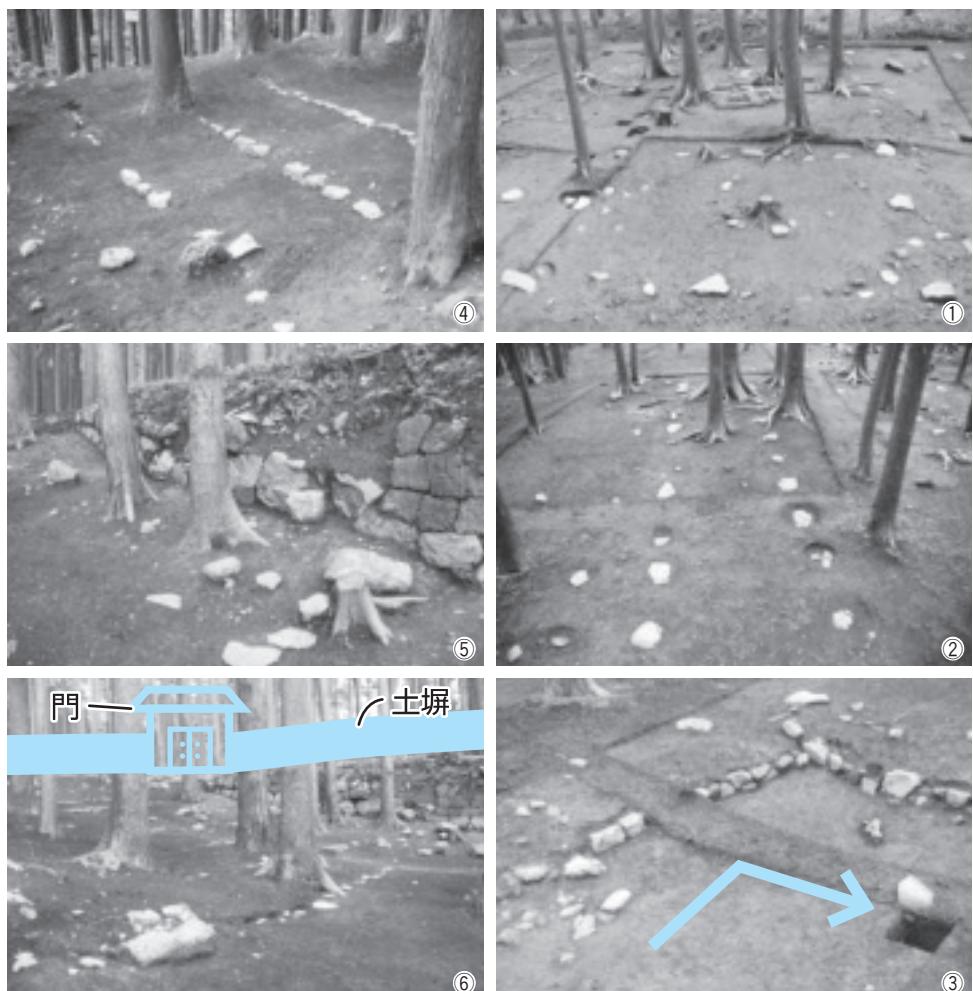
表土を約10cm除去すると当時の地表面が現れ、土壇が建物の基礎にあるたことが確認されました。整地面の上に盛土を行い基礎面とし、法面や床面に小石を敷き詰めて、排水対策や美観に配慮をしていました。

これらは土壇の底部や礎石などの可能性があり、正門内部にも小門や土壇などを設けて進路を遮断し、何度も直角に折れ曲がることによって、敵兵が容易に侵入できないよう工夫されていました。

たことが確認できました。

また、本丸も古本丸と同様に岩盤層まで削り出し、外側に大きく盛土を行いました。

また、正門付近の枠形構造や石垣などの、近世城郭の築城思想や技術を探



①本丸中央部で確認された大小の石列(複数の建物が存在していたことが予想される)。②本丸中央部に整然と並ぶ礎石列。③本丸正門内側で確認された石組み遺構(通路を何度も折り曲げることで敵の侵入を遅らせていた)。④本丸正門枠形に設けられた石段。⑤本丸正門の石垣(石の種類や積み方の違いから、何度も修復された可能性あり)。⑥本丸正門枠形の全景(当時は石垣の上などに土壇や門が築かれ、敵から城内が見えないようになっていた)。

4年間の発掘調査を終え 見えてきたもの

今回の調査では、鳥山城が築かれた年代について、具体的な成果を得ることはできませんでした。しかし、調査前には予想していなかつた、古本丸、本丸での大規模な土木普請の痕跡を確認できましたことは、城郭の発展経過を考えると、貴重な発見となりました。土木普請が、城郭全体に行われていたことを考えると、改めて城主の強大な権力、人員の動員力に驚かされます。

また、正門付近の枠形構造や石垣などの、近世城郭の築城思想や技術を探

り入れている箇所が存在し、鳥山城が、「実戦の城」という姿を保ちながら、近世城郭に発展を遂げた城郭であつたことを確認できたのは、もう一つの大きな調査成果といえます。

江戸時代になり、中世に築かれた多くの山城が役目を終え廃城となりましたが、鳥山城は、山麓に新たな居館（三の丸）が築かれ、明治時代まで鳥山藩の居城として存続した日本城郭史の中でも数少ない事例の1つとなっています。さらに、それらの遺構が、ほぼ完全な状態で保存されているという、他の城郭にはない特色を持っています。

鳥山城は、数百年という長い期間に

わたって、歴代城主によって増改築を繰り返されながら発展を遂げ、最終進化した姿を私たちに見せてくれています。

今は苔生す石垣と山林に覆われた古城ですが、市民のみなさんにも、他の名城にも決して劣らない歴史や魅力を持つことに誇りを感じていただければ幸いです。

最後になりますが、今回の調査にあたりご協力をいただいた所有者の皆様、諸関係機関にお札を申し上げ、調査の報告とさせていただきます。



本丸高段面の発掘調査(調査で得られた情報を図面や写真に記録)。

鳥山城

4年間の発掘調査の結果



市教育委員会
生涯学習課文化担当
江守 浩史さん

常に頭には「なぜだろう」の5文字

「城づくりに従事した人はどれ位の人数だろう? この人達の衣食住は…?」鳥山城の調査のとき、思い浮かんだ疑問の一つです。

「たぶん、領内の農民が多数動員され、土木工事に従事したのだろう。通いでは不効率だから、近くに宿泊所があったかも知れないな…」こんな答えが頭に浮かびます。

「待てよ、古代エジプトのピラミッド工事は、最近ではファラオの経済対策の1つという学説が有力だし、城下に人が大量に集まれば、物は流通するしお金も動く、もしかして城づくりも城主の経済対策なのでは…」と、少し飛躍し過ぎですが、こんな事も考えたりします。これが歴史を推理する楽しさなのかも知れません。

鴻野山地区にある「長者ヶ平官衙遺跡 附 東山道跡」。少々長い名称ですが、約1100年前の地方役所と官道(今の高速道路)に関連する国指定の史跡です。

当時は役所の建物や倉庫が整然と立ち並び、都から続く幅10mもある道路が縦断する、とても重要な場所でした。しかし、現代人の視点から見ると、「なぜ、こんな場所に役所をつくったの?」と思うような場所に立地しています。

発掘調査を進めていくと、担当者の頭に「なぜだろう」という言葉が必ず浮かんできます。両遺跡とも、実際、分からぬ事の方が多く、常に私達の頭を悩ませてくれます。

今年の秋頃、この2つの遺跡を対象にしたイベントを計画しています。各分野の専門家を招いての講演会も予定しています。ぜひ、皆さんもイベントへ参加して、私達と一緒に歴史の「なぜ」を考える楽しさを味わってみませんか。

*用語説明

樹形…城の出入口の防御施設のこと。

多くの場合、城門を二重に設け、

その間に石垣や土塹などで囲ん

だ広い空間を指す。

基礎石…建物を建てる際、柱などを置くために地面に固定された大型の石。主に瓦葺きなどの重量がある建物を作る場合に用いられる。

第12回なすみなみ若鮎駅伝大会・第4回南那須地区小学生駅伝大会

74チームが健脚競う

若鮎駅伝

2月23日(日)、「なすみなみ若鮎駅伝大会(南那須地区陸上競技協会主催)」が、大桶運動公園を発着点に那珂川沿いを一周する6区間25kmのコースで開かれました。

大会は、地域の活性化や駅伝普及を目的として開かれているもので、今年で12回を迎えます。

回を重ねることに県内外から幅広く参加チームが集う同大会。今年は、46チームが参加し、「練馬1普連A」が見事優勝を飾りました。



力走する選手たち(若鮎駅伝)。

なお、結果は次のとおりです(上位チーム及び本市チーム)。

①練馬1普連A ②二本松市駅伝チーム
③栃木銀行 ④文星芸大附 ⑤大田原高校A ⑥那珂川町体育協会A
⑦烏山高校OB ⑧下江川RC ⑨荒川RC ⑩荒川中学校サッカーチーム
⑪JAなす南 ⑫からら 峰RC ⑬NTT栃木RC ⑭高

【男子の部】

なお、結果は次のとおりです(本市チーム)。

男子、女子、年少(小学4年生以下)の3部門に両市町のスポーツ少年団など合計28チームが参加しました。子どもたちは、家族やチームメイトの声援にこたえるように懸命に走っていました。

年長組園児「小学校探検」

七合保育園・すくすく保育園・にこにこ保育園・つくし幼稚園

もうすぐ1年生!

市内の3保育園と1幼稚園では、4月から小学校に入学する年長組の園児を対象に、1月下旬から2月下旬にかけて「小学校探検」を行いました。

これは、小学校の施設を見学したり、児童や教諭と交流したりすることで、園児の不安を解消し、入学の期待を高めようと毎年開いているものです。

1月24日(金)には、すくすく保育園児

した。

園児たちが訪問した小学校では、1年生が出迎え、学校の紹介や校内探検などで交流しました。校内探検では、1年生が園児の手をとり、お兄さん、お姉さんぶりを發揮する姿がみられました。

園児たちも最初は緊張していた様子でしたが、交流をしていくうちに緊張も解け、入学する楽しみが増したよう

こども館では、保育士が地域に出向いて子育て支援をする「移動出前サロン」を市内全域で開いています。これは、毎週火曜と木曜に地域の公民館等で手遊びや親子体操、ゲームなどを通して参加者の交流を促進するもので、毎回、子育て中のお母さんたちでにぎわっています。また、参加者からは、家の近所で開かれることや家庭的な雰囲気が好評です。

4月からは、開催時間を午前9時から午後2時までに拡大します。開催予定場所は、保健福祉センター、鴻野山公民館、上川井公民館、三箇公民館、熊田西公民館、境公民館、谷浅見下コミュニティーセンター、農村婦人の家(JAなす南鳥山支店裏)の8ヶ所です。



アロマ体験(子どもたちが目の届く場所で活動できるので安心して参加することができます)。

詳しくは、市ホームページをご覧いただくか、こども館☎0287-80-0281までお問い合わせください。

14歳を祝い、将来の決意や目標などを掲げようと「立志式」が、1月31日(金)、烏山中学校で開かれ、同校2年生の生徒152人が多くの来賓や保護者に祝福されました。

当日は、「立志のことば」として、漢字一文字とそこに込められた意味を一人ひとり発表しました。ことばの中には、「『咲』これから会うたくさんの人々に笑顔を咲かせる人になりたい」や「『新』立志をきっかけに新しい人生を歩んでいきたい」など、明るいことばが並び、大人になる自覚を深めたようです。

なお、1月29日(木)には、荒川中学校でも立志式が行われました。



「立志のことば」を発表する生徒たち。

烏山中 立志式

将来に向けての決意新たに



スタートの合図で一斉に飛び出す(小学生駅伝)。

女子の部	男子の部
①七合スピリッツ A	②那須烏山ソフ
トボールクラブ A	③七合スピリッツ
④那須烏山ソフトボールクラブ B	⑤七合ファイターズ C
⑥七合スパルタ C	⑦七合スピリッツ
⑧那須烏山ソフ	⑨七合ファイターズ B
トボール C	⑩那須烏山ソ
⑪烏山クラブ B	⑫那須烏山ソ



①1年生と交流(烏山小)。
②初めての給食に笑顔(七合小)。



③1年生の案内で学校を見学(江川小)。
④1年生の学校紹介に興味津々(荒川小)。

20人が烏山小学校へ、2月13日(木)には、七合保育園児16人が七合小学校へ、2月20日(木)には、にこにこ保育園児28人とつくし幼稚園児48人が合同で荒川小学校と江川小学校にそれぞれ訪問しま

した。
また、烏山小学校と七合小学校では、学校給食の試食も体験。初めて食べる給食は、園児たちに「おいしい」と好評でした。